

令和4年 7月吉日

進学塾アペックス

アペックス便り 7月号

おしらせと今月の行事予定

※6月28/29/30日は休講です。【年間調整日】

※7/4日～1学期の成績を中心に成績報告懇談を実施致します。[対象…小学/中学非受験学年]

◎7/19～8/24…夏期講習会の実施

[小6/中3の受験学年は必修参加]

◎8/11～13の3日間[夏季特別強化合宿]を実施します。参加者受付中!!

[小6/中3の受験学年は必修参加]

※講習会、合宿共に外部生徒も参加できます。積極的なお友達に紹介してね…!

今月の予定

●6/28/29/30日 (休講)
年間調整日

○7/19日…夏期講習開始
[7/19日～8/24までの期間]

○7/4日～18日の期間内
成績報告懇談会 (小/中)

◆夏期講習会/夏季合宿
への参加受付中です!!

塾長のフログ

●～この世に生まれたことが奇跡。

命ある限り、夢は絶対に諦めない!～[vol.2]

◆[生命とは何か]…ポール・ナース著 『What Is Life?』

入院中は有り余る時間の中で、恰好の読書タイムを得られた。わが身の疾患の影響ではないが、以前購入後に読まずじまいのままのポール・ナース著の『What is Life?』は、一気に読めて感銘できた、読み応えのある一冊だ。ノーベル生理学、医学賞とW受賞された生物学の世界における巨人と言われる氏の、初めての「体」の出版というから驚いた。記者の竹内薫氏も推論するように、ポール・ナースは次世代の為、人類が悲惨な状態に陥らないために、生涯で一冊の一般向け科学書をかいたのではないか、というくらい壮大な物語を書き記した。

我々生物は、地球上のありとあらゆる生命の本質的な繋がりと、相互依存の深さだけでなく、共通の進化のルーツを通して遺伝的に親戚であることによってもたらされ、あらゆる地球上の生命は一つの生態系に属していることに視界を広げさせてくれる。しかもなんと、今日地球上にある生命の始まり

は「たった一回だけ」だったのだ。地球上の生物の誕生が、35億年の歴史でたった一度だけ起こった「奇跡」であり我々生物はすべてが他の生物に依存しつつ自然淘汰で進化し、自らを律する物理的存在であることに変わりがない形態で、あまねく相互に繋がる親戚といえる。生命は寿命が限られ、環境変化に適応する能力にも限界がある。「自然淘汰」の出番が、ここにあり古い体制を一掃し、もつとふざわしい変異型が存在すれば、新しい世代に道を譲る。

どうやら、死があるからこそ生命があるらしい…。

この「自然淘汰」という無慈悲な選別プロセスは、多くの予期せぬものも創り出した。最も並外れたものの一つが、人間の脳といえる。自らの存在に「気づいて」いる生物は他に見当たらない。ポール・ナースは、我々人間が持つ「自意識の心」は、少なくともある部分、世界の変化に合わせて行動する自由裁量のために進化したに違いないと推論する。我々は、蝶や他の動物と違って、やりたいことをじっくり検討し、意図的に選ぶことのできる唯一の生物なのだ。全地球上のありとあらゆる生命体の中で、人間に課せられた責務は重要と、ポール・ナースは提唱する。感染症の細菌から、発酵している酵母や、這いまわるミズから、森を彷徨うゴリラまで、我々生物は、生存競争を生き抜いた偉大な同志だ。細胞分裂という途切れのない鎖を遡り、最古の果てへと繋がる計り知れないほど広大な、たった一つの家系の子孫たちなのだ…と。

生命を慈しむ氏の締めくくりは、「生きているとはどういうことか?」「命とは何だろうか?」と自我の枠組みを超えて考えさせられる。これは私にとって意義深かったし良かったと思う。要は、この地球上で、生まれたことが奇跡であり生命の伝承に関わられた喜び、すなわち人間として「自意識」の心を持ちながら、生命を使い切った先へ、次世代へのバトンを伝承できる『人生』(人に生まれ、人として生きた=生命体)に素直に感謝したいと思う。わが人生を全う、満喫できたかに集約できるかは、自分なりに答えをだす責務が有ると考えると良いだろう。それこそ、「存在」意義を自分なりに解釈できれば、本望だろうし、人生の総締めと言って良いほどの大きなテーマでもある。

果たして、私は自らの生を全うし、満喫し得ることができたのだろうか?

自らの生の存在意義を見出せたのだろうか?究極を言えば、人は死ぬために生きる。そのプロセスは、生きざまに集約され、人は死ねば無に帰し、生きざまだけが、微かな記憶となって人の心に留まるだけだ。記憶に、善悪の区別は無く、また血縁の遠近に関わらず、存在意義は、記憶の中で増幅もすれば、途絶えることもある。

地球上で無数の輪廻転生のサイクルの一環としての生の役割は、進化の一端を担った意味で果たしたとしても、存在意義を自ら検証し、気付ける人は稀有なのかも知れない。わが人生に迷いなし、そして後悔なく全うできた、と言い切ることに意義はあるのか…。

人生模様には、いろんな縦系、横系が絡み合い、壮大な模様を描くための節目や出逢いが存在するが、さらに宿命、運命、天命の要素の認識如何によれば、模様そのものが大きく変わると、信じる私がある。

(若さ)は前だけを見据え、振り返る機会が少ない。猪突猛進の如く突っ走ってきた自身を振り返ると未来永劫に(命)が続くかの如く(前(未来)だけを夢見てきた感がある。

[裏面に続く]